



地球にやさしく

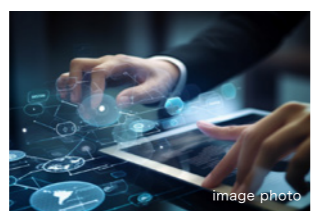
地域とともに気候変動に対する意識を高め、そのスピードをゆめめ、その影響を警戒する、人や組織の能力を高めます。



脱炭素事業開始 脱炭素を軸にした地方創生の取り組み

地域、そして地域を超えた連携で持続可能な社会づくりに貢献します

「地方創生と脱炭素社会への貢献」を重要な経営ミッションに掲げる両備グループでは広くグループ内外のシナジーを高めることでそのスケールメリットを活かした二酸化炭素排出量の削減策に取り組んでいます。GX(グリーン転換)成功の鍵を握るキモはDX(デジタル転換)です。DXを上手く使うことで継続したカーボンニュートラル関連事業の革新と創造につなげ、ビジネスモデルを変革し続けます。



脱炭素の活動は、まずは自らの実像を知るところから始まります。グループ全体の二酸化炭素排出量を一元管理し、精緻に数値化することでグループの実態を正確に把握しています。また投資判断基準のひとつとして有効な「ICP(インターナルカーボンプライシング)=社内炭素価格制度」を導入します。グループ各社が排出する二酸化炭素量に価格付けすることで排出量の抑制につなげていきます。また、関係各社様と連携し共創過程における二酸化炭素排出量を把握、管理、削減するお手伝いをします。グループ未来事業推進室が核となってスタートさせた「GHG排出量算定支援事業」「脱炭素推進支援事業」もそのひとつで、今後、創エネ・蓄エネ・活エネ・省エネなど様々な視点での脱炭素の取り組みを強化し、持続可能な地域の発展に貢献します。



地球にやさしい運輸 グリーン経営認証取得

認証機関交通エコロジー・モビリティ財団が作成した「グリーン経営推進マニュアル」に基づく取り組みを行ない、認証を取得しました。

グリーン経営認証制度とは
環境保全を目的とした取り組みを行っている運輸事業者(トラック、バス、タクシー、旅客船、内航海運、港湾運送、倉庫)に対する認証制度です。



エコの意識をあげる バス「エコドライブ講習会」実施

両備グループ バスユニット各社

地球環境に優しい企業を目指してバス事業者で「エコドライブ講習会」を実施。エコドライブを実践することで、「環境保全への貢献」「安全性の向上」「経済性の向上」などの様々な効果が期待できます。



節水意識を高める 小学校への「雨水貯水タンク」設置に協力

まちづくりカンパニーは、民間で初めて浸水対策啓発の一環として、2018年9月から岡山市が市内の小学校を対象に行なう「雨水貯水タンク」設置に協力。岡山市の小学校2校に毎年「雨水貯水タンク」を1基ずつ寄贈しています。



導入効果
雨水を活用することで、水の循環の仕組みを理解することに繋がり、雨の日が待ち遠しくなったり、水がもったいないという水の大切さや節水の意識を高める効果が期待できます。また、災害や断水時の生活用水としても利用でき、都市型洪水の軽減効果も見込めます。

「もしものときの」まちづくり

災害が起きたとき、立ち直る強靱なしなやかさを持ちます。



災害に備えて連携 両備グループと岡山市が災害発生時協力協定

災害発生時に、次の4項目における協力協定を2014年に岡山市と締結しました。行政と、民間企業グループとのバス・タクシー・フェリー・石油・介護要員等の多岐業務に渡る協定は全国に例をみません。

- 協力内容(一例)
- ・バス・タクシー・フェリーを利用した避難所等への人員搬送
 - ・フェリーを利用した支援物資等の搬送(カウンターパートナー制を採用している高松市が被災した場合)
 - ・両備グループ運営のサービスステーションにおける一時避難場所の指定及び燃料供給
 - ・大規模災害時の避難所における人的支援(ヘルパー派遣)及び事業所の避難所指定

空からの災害支援 両備グループと早島町がドローンを活用した災害支援協定

災害発生時における支援活動に関する協定を岡山県早島町と2023年に締結。ドローンスクールを運営する両備グループが自社の物流基地も有する早島町に対して、陸と空の両側面から支援協力します。



- 協力内容
- ・ドローン機材やインストラクターの派遣
 - ・ドローンによる被害者の捜索、救援物資の運搬
 - ・災害発生時におけるトラック等による救援物資の輸送など

災害に強い給油所 「震災対応サービスステーション」の整備

停電中でも給油ができる
両備エネシスが運営するガソリンスタンドに発電設備や給水設備を備えた災害に強い給油所を増設しています。万一、大規模地震発生時等にライフラインがストップした場合でも、給油や水の供給が可能です。



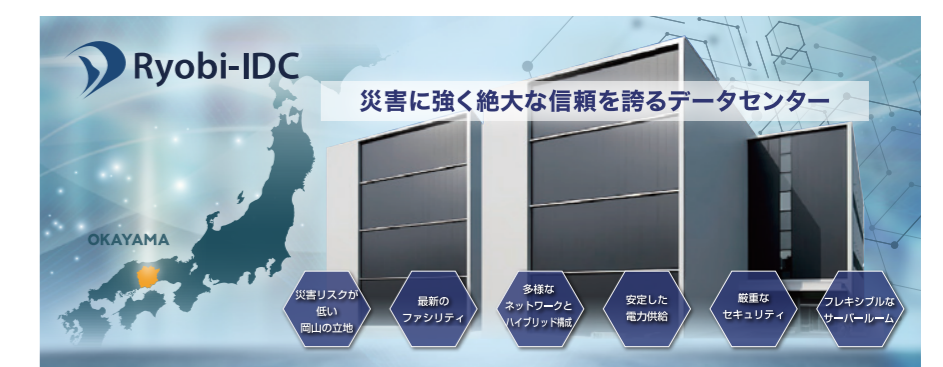
災害時の情報共有 住民生活総合支援アプリ「i-Blend」

住民の手のひらでつながる行政サービスの新しいカタチ

住民への新たな広報手段として従来のホームページなどのプル型の情報発信ではなく、プッシュ型の積極的な情報発信を行なうアプリサービスです。タイムリーに災害時の情報共有などが可能になります。



災害時のデータ保全 情報の安全を守るデータセンター(Ryobi-IDC)



自然災害が少なく交通の便にも優れた立地条件の良い「岡山」に、災害に強く絶大な信頼を誇るデータセンターを設置。最新のファシリティ、厳重なセキュリティ、安定した電力供給、フレキシブルなサーバールームを特長としています。多様なネットワークとハイブリッド構成が可能な各種クラウドサービスも取り揃えています。